

執筆者紹介

Willem Jan Boot (ウリエム・ヤン・ボート)

ライデン大学教授

オランダに生まれ、1966年にオランダ国立ライデン大学の東アジア言語と文学講座に入学。専攻は日本学。1971年から1974まで国費留学生として京都大学に留学。1983年に *The Adoption and Adaptation of Neo-Confucianism in Japan: The Role of Fujiwara Seika and Hayashi Razan* という論文をライデン大学に提出し1983年に博士号を取得。1985に日本学 (“Languages and Cultures of Japan”) 教授に任命され、以後、ライデン大学の日本韓国学科の主任教授を務める。専攻は江戸時代の思想史。

陳 斐 寧 (Chen Fei-ning チン・ヒネイ)

静宜大学助理教授

文化大学外国語学部卒。神戸大学文化科学研究科博士課程修了。専門は平安朝文学。論文に、「後朱雀天皇の乳母達」(『国文論叢』第35号、神戸大学国語国文学会) などがある。

Edward Kamens (エドワード・ケーメンズ)

イエール大学教授

イエール大学卒および同大学院終了。1980年早稲田大学に留学。イエール大学東アジア語学文学学部にて日本古典文学を担当。出版(本)には、*The Three Jewels: A Translation and Study of Minamoto no Tamenori's Sanbōe* (1988), *The Buddhist Poetry of the Great Kamo Priestess: Daisaiin Senshi and Hosshin wakashū* (1990), *Utamakura, Allusion, and Intertextuality in Traditional Japanese Poetry* (1997) その他。

顧 偉 良 (Gu Wei-liang コ・イリョウ)

弘前学院大学教授

上海外国語学院卒。県立静岡女子大学特別研究員を経て、日本大学大学院修士課程修了、東海大学大学院博士課程修了。専門は日本近代文学、日中比較文学。論文に「谷間の時代の中の文学—文学の世界性をめざして」(『日本文学』第51巻第1号、日本文学協会編、2002年1月)、「遊歩者としての経験—弁髪・にせ毛唐・見世物」(『国文学言語と文芸』121号、言語と文芸の会編、平成16年10月)、「啄木と周作人」(『國文学』解釈と教材の研究、第49巻13号、2004年

12月号)など多数ある。翻訳：「趙振先『今天』の過ぎ去りし日々」(第1回、第2回、第3回、第4回)、中国文芸研究会会報第285号～第288号、2005年7月～10月(つづく)などがある。

山崎 佳代子 (やまさき・かよこ)

ベオグラード大学助教授

北海道大学文学部(ロシア文学専攻)卒業後、ユーゴスラヴィア政府給費生としてサラエボ大学、リュブリャナ民族音楽研究所に留学。ベオグラード大学文学部にて博士号取得(『1920年代における日本アヴァンギャルド詩の発展—セルビア文学との比較考察』)現職に至る。主な研究書に *Japanska avangardna poezija* (『日本アヴァンギャルド詩』、Filip Višnjić, Beograd, 2004, 283頁)があるほか、最近の論文に「セルビアにおける前衛詩運動と日本の詩歌」(『國文学』、2005年、9月号、56-63頁)がある。セルビア語による日本文学に関する論文、日本現代詩のセルビア語への翻訳多数。翻訳書にはダニロ・キシユ『死者の百科事典』(東京創元社、1999年)など、詩集には『秘やかな朝』(書肆山田、2004年)など、エッセイ集『そこから青い闇がささやき』(河出書房新社、2003年)などがある。

Stephen Dodd (スティーブ・ドッド)

ロンドン大学助教授

オックスフォード大学東洋学科を卒業。コロンビア大学修士、博士課程(日本文学)終了。北カロライナ州デュック(Duke)大学を経て現職のSOAS(東洋アフリカ学院)。専門分野は日本近代文学、特に明治大正時代。書物は *Writing Home: Representations of the Native Place in Modern Japanese Literature* (Harvard University Press, 2004) その他。

黄 智 暉 (Huang Chihhui コウ・チキ)

東京大学大学院生

東呉大学日本語文学系卒。東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了後、同博士課程に進学、現在に至る。専門は、日本近世文学、特に曲亭馬琴の読本を中心に研究。論文に「曲亭馬琴之讀本與『易經』『春秋』」(『台大日本語研究』4、台湾大学日本語文学系、2003・6)、「馬琴読本における易学的趣向—『八文綺談』から『美少年録』へ—」(『日本文学』53-3、日本文学協会、2004・3)、「馬琴読本と五徳終始説—『墨田川梅柳新書』から『開卷驚奇俠客伝』へ—」(『国語と国文学』82-2、東京大学国語国文学会、2005・2)などがある。

周 以 量 (Zhou Yi-liang シュウ・イリョウ)

首都師範大学助教授

西安外国語学院日本語学科卒。北京外国語大学大学院修士課程修了、東京都立大学人文科学研究科博士課程修了。専門は日本近世文学、中日比較文化・比較文学。論文に、「日本における『太平広記』の流布と受容」(『和漢比較文学』)、
「『諸仏感応見好書』と中国小説」(『都大論究』)などがある。

井上 泰至 (いのうえ・やすし)

防衛大学校助教授

上智大学大学院博士後期課程満期退学。専攻：日本近世文学。著書：『兩月物語論—源泉と主題』(笠間書院)1999。主要論文：「歴史の捏造—『東国太平記』の場合」(『国語国文』69-5)2000。「市隠の旅—旗本歌人京極高門」(『文学』2-1)2001。「読み物としての近世軍書」(『国語と国文学』81-4)2004。「サムライ達の物語—近世軍書」(『江戸文学』31)2004。

Laura Moretti (ラウラ・モレッティ)

ヴェネツィア大学専任講師

ヴェネツィア大学東アジア研究科(日本学専攻)卒。同大学で博士学位取得。同時に、国費研究生として東京大学で学ぶ。ヴェネツィア大学非常勤講師を経て、現職。専攻は近世文学(特に仮名草子)。専修大学でのネット授業、国文学研究資料館の在欧日本古典籍資料の書誌調査への参加などを経た。著書に *Chikusai il ciarlatano* (『竹斎』寛永整版本のイタリア語訳(原本挿絵含み)付き解説、Cafoscarina, Venezia 2003, 192p.)。論文には「『木斎咄医者評判』論(上)—「竹斎もの」の一つとして」(『文学研究』91号、平成15年4月、59-78頁)、「『木斎咄医者評判』論(下)—「竹斎もの」の一つとして」(『文学研究』92号、平成16年4月、29-38頁)、「東洋文庫所蔵『ひやう』の翻刻と解題」(『近世初期文芸』21号、平成16年12月、38-77頁)などがある。

湯 薇 薇 (Tang Weiwei タン・ウェイウェイ)

東京大学大学院生

天津南開大学日本語文学部卒。同大学院修士課程修了。静岡県立大学国際関係研究科を経て、東京大学大学院総合文化研究科に入学、現在に至る。現在の研究テーマは明治初期の政治小説及び漢詩文。論文に「日訳漢錯誤探微」(南開大学日本研究センター、『日本研究論文集4』、1997)

Mark Williams (マーク・ウィリアムズ)

リーズ大学教授

オックスフォード大学日本学科卒。国際キリスト教大学、東京大学文学部へ留学。カリフォルニア大学（バークレイ）にて日本文学博士取得。現在はリーズ大学東アジア学部長。

研究分野は現代日本文学。著書は1996. J. Breen and M. Williams (eds) *Japan and Christianity: Impacts and Responses* (Macmillan), 1999. *Endō Shūsaku : A Literature of Reconciliation* (Routledge), 2006. R. Hutchinson & M. Williams (eds) *Representing the Other in Modern Japanese Literature: A Critical Approach* (Routledge) の他英文・日本語の論文多数。